

論文審査の結果の要旨及び担当者

報告番号	博（医）甲第 1281 号	氏名	小林 和真
論文審査担当者		主査教授	中尾一彦
		副査教授	田口 尚
		副査教授	永安 武

論文審査の結果の要旨

1 研究目的の評価

本研究は、治癒切除後にも関わらず高い再発率を示す肝細胞癌の再発リスクについて臨床病理学的に検討を行ったもので、目的は十分に妥当である。

2 研究手法に関する評価

肝細胞癌手術症例の臨床生化学データ並びに肝細胞癌切除標本の癌部、非癌部の病理学的検討を詳細に行い、種々の統計学的解析法を用いて解析したもので、研究手法も妥当である。

3 解析・考察の評価

上記手法で解析した結果、肝細胞癌治癒切除後の早期再発には腫瘍マーカーである AFP の術前値、切除標本の非癌部の炎症、線維化が大きく関わること、一方、晩期再発には切除非癌部に見られる hyperplastic foci (HPF) 存在の有無が有意な再発因子であることを明らかにしている。特に、残存背景肝の発癌ポテンシャルの指標としての HPF の意義を明らかにしたことで、今後の肝発癌研究への展開が大いに期待される。

以上のように本論文は肝細胞癌における多中心性発癌の機序解明に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。